

13 患者が求める審美性とは

— 歯科治療に対する保護者の
意識調査結果から —

○山口昭一、浜野良彦、井槌浩雄、
下飛田道子

オクト・ピド・グループ

口許の感じ、特に歯の形や色、あるいはその並び方によって、その人の印象がかなり違ってくると、顔の表情を語る上で、歯のもつ役割は非常に重要である。最近、成人の歯科治療において、審美歯科の分野が注目を集めてきているが、齲蝕や外傷などによって、歯の原形を失ってしまった子供に対して、その形態を修復し、咀嚼や発音などの機能を回復させることはもとより、より審美的な修復を心掛けることは、子供の心理的な面からも今後増々重要なこととなってくると考えている。

しかし、子供の歯の審美性に関する評価を考える時、特に低年齢の子供の場合には、保護者の考え方を無視することはできない。子供の歯の愁眉についての判断は、その患児の保護者がまず最初に下すのが一般的である。このことから、子供の歯の審美性を考える際には、保護者の意識や要求を十分理解しておくことが必要であり、その上で治療を行なうことが子供あるいはその保護者に治療後の満足度を高めることになると考える。

そこで、今回我々は、当院を受診した子供の母親に対して子供の歯の審美性に関する意識調査を行なった。

特に、今回は前歯部の審美的修復の代表的な処置であるコンポジット・レジン・ジャケット冠（CRJ冠）について、その認知度、あるいは治療費等についてアンケート調査を行ない、年齢、性別、家族構成等の点から考察を加えた。

また、実際に前歯部にCRJ冠の治療を受けた子供の母親に対して、治療後の満足度等についても、アンケート調査を行ない、治療を受けていない母親の調査結果との比較をおこなった。

14 乳臼歯髓床底部における

副根管に関する研究(Ⅱ)

— インド人下顎乳臼歯副根管の
SEMによる観察 —

後藤讓治、○張野、品川浩実、
中村則子、有富匡子、細矢由美子
長大・歯・小児歯

髓室から歯根膜に通ずる副根管のうち、乳臼歯に存在する副根管についての報告は少ない。演者等は既に走査型電子顕微鏡による、乳臼歯髓床底部における副根管の観察について報告したが、今回は、症例数を追加し、若干の知見を得たので、報告する。

<方法>：本研究に用いた試料はインド人小児の頭蓋骨10顆の下顎骨により得られた乳臼歯40歯である。被検歯の歯列はいずれもHellmanの咬合発育段階ⅡAの状態であった。これらの下顎骨及び被検歯のカラー写真撮影及び記録等を行った。

被検歯は八木の基準に従って、歯軸を決定した後、ダイヤモンドディスクを用いて、根分岐部から根端側1.5mmの部位及び歯頸部より歯冠側5mmの部位で歯軸と直角に切断した。被検歯を10%次亜塩素酸ナトリウム溶液中に浸漬し、1.5%過酸化水素水で中和した後、蒸留水中で超音波洗浄を施し、アルコールによる脱水を行い、イオンスパッタリング装置による金蒸着を施した。次いで走査型電子顕微鏡日立S-520を用いて、髓床底部の副根管の観察、計測並び写真撮影等を行った。

<結果>：インド人小児の下顎乳臼歯40歯について、走査型電子顕微鏡による観察を行い、以下の結果を得た。

1. 乳臼歯髓床底に副根管の存在が確認された。
2. 副根管の発現部位は髓床底中央部に最も多く見られた。
3. これらの副根管の内径は平均約48.1 μ mであった。
4. 副根管の開口部の形態は円形が最も多く、次いで楕円形であった。
5. 副根管は同一個体の同名歯に左右対称に発現する傾向が認められた。
6. 副根管の発現には個体差があり、副根管が多数歯に存在する場合と全く存在しない場合とがあるものと思われた。